

ルアンパバーンへ移動する。革命後、ルアンパバーンと改称されたのか？ルアンプラバンと懐かしさを込めて、呼ばれる場合が多い。我々の年代にはルアンプラバンという呼称はよく聞いた。ベトナム戦争当時、この文化性の高い古都がアメリカ軍の爆撃で破壊されるのが、我慢ならないとする運動が起こったと記憶する。恥知らずな破壊活動の象徴として、語られた記憶がある。特に京都では、日本の京都が破壊されるのに匹敵する蛮行であるとして、受け止められた。

- 8:00 昨日と同様の **Breakfast**. ただし、今日は月曜日。タイからの富裕層の旅客も帰国し、客数が少ないので、ビュッフェ形式から、注文による配膳形式に変わった。コーヒーは自由。  
ツクツクが各ゲストハウスの客を集めて、米軍基地跡の例のバスターミナルへ終結。
- 10:30 **Express bus** がターミナルを出発。**Vientiane Vang Vieng** 間に乗車したバスと同じ形式のもの。料金二人で19ドル。約7時間の長丁場になる。  
険しい山間地の道路。急傾斜地の曲線の多い道路を喘ぎながら、ひた走り、下りはかなりのスピードを上げる。険しい山間地にモンの小集落が点在する地域。今だに「制圧」しきれないモン兵士が時々出没するとか。「山賊」に出くわすこともあるとか。現に、現地在住の外交官はここをバスで通過しないようにとの通達も出されているという。後日、再度 **Vientiane** に入った時、丁度、我々が通過する日程のころ、何か事件があったようだ聞いた。  
何が起こっても不思議ではないと思える地域であった。  
途中、山間の **Village** の様子がよくわかる。焼畑、造林地、水の流れのある村、ない村、集落の中の水道に集まり、水浴びする子供、髪を洗う婦人の姿、山仕事に入る住民、屋根に使う材料を収集する人、箒に加工する草を集める人、焼畑の跡のバナナ栽培など、生活が垣間見えて、興味が尽きない。  
行程中、3回の休憩。一回目はトイレ休憩、2回目は各自自由に昼食をとる。僅かな広がりには少しの町並みを形成している。行き交う長距離バスが終結している。近くには中学校らしきものもあり、この山の地域の中心と思われる。  
3回目はトイレ休憩。路上に止めてのトイレ休憩。途中、**Province** 超えのゲートでチェックを受ける。
- 17:30 ルアンプラバンの郊外のバスターミナルに到着。各地からのバスが終結している。客を求めるツクツクの群れ。観光地である。
- 18:00 ツクツクに乗り合わせて、ゲストハウスに到着。メコン河に面した、かなり質の高いゲストハウスである。**Beauy Kokjieng guest house**.
- 19:00 ゲストハウスを出て、夜のマーケットを散策してレストラン探し。ラオ料理店で夕食を採る。仏画の額とオーストラリア人写真家が撮ったと言う絵葉書を買う。  
さらに、ゲストハウス近くになって、ラオス人が屋外のレストランで賑やかに何やらパーティ。テーブルに座って、パンとビアラオを注文。
- 23:30 ゲストハウス帰着。門限を超えている。



ツクツクがターミナルに終結。屋根に荷物が。



山岳地域の村。  
焼き畑があり、バナナの栽培が見られる。山容は険しく、Vang Vieng と同じ石灰岩の岩肌。



トイレ休憩地。山中の小さな集落。  
ここにもタイの音楽 CD が、タイ文化の浸透は広くて深い。



Police の文字が





↑ 山中の町並み。ここでもツーリスト用ゲストハウスが。

↓ 険しい山容。ほとんどが焼き畑である。林相は低灌木。山の頂まで人の入った跡が裸地の通路となって見える。左の写真は遠くに道路が見える。バスはこれを通して、下りになり、ルアンプラバンに入ることとなる。



ラオスの森林は森林被覆率は僅か41.5%と言われる。貧困の中での人口増大による焼畑耕地の拡大が森林疲弊の原因と言われる。焼畑を禁止すると同時に、木材と非木材森林生産物の生産促進を図るアクションプラン「森林戦略2020」を進めている。日本の実情と合わせ、考える時、優れた政策と注目される。



↑ 路上でのトイレ休憩。その間も Vip bus などが猛スピードで追い抜いていく。子どもたちが興味深く見ている。



↑ 昼食休憩場所。往来するバスが多数終結している。ツーリストにももの売る人なども集まり、なかなかの賑わい。

近くに中学校もあり、退校時間なのか列を作るように出てきた。 →







バスの終結する場所は子供たちの遊び場になっている。学校は給食が無く、自宅に帰って食事を採る。昼食時間を過ぎていたので、退校後の子供の時間の過ごし方になっているのだろう。

ラオスでは物売りする子供は各地で見られたが、物乞いする子供の姿はない。ここで初めて、幼児を背負った少女がバスに駆け寄り物乞いを。



道路工事用車両が運搬される。

山に入る人。人里からは遙か離れている。



← ルアンプラバンのバスターミナルに到着。ツクツクにてゲストハウスへ。相乗り



約8時間の長帳場であった。暮れなすむ頃、ゲストハウスへ到着。メコン河が目の前に。

